

税制調査会（第4回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成28年10月14日（金）11時46分～

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

○中里会長

今日は、皆様がお聞きになっていたとおりでして、外国子会社合算税制の見直しについての議論と納税実務等を巡る近年の環境変化への対応についての議論の二つについて御意見を頂戴しました。

次回以降は、先ほど申しましたとおり、引き続き外国子会社合算税制の見直しを中心に議論を深めていきたい。これが国際課税についてです。個人所得課税については就業調整を意識しなくて済む仕組みの構築をはじめとしたこれまでの議論に加えて、更にいくつかの論点も出てくるかもしれませんから、それについて議論していきたい。それから、今日始めました、納税実務等を巡る近年の環境変化への対応についても幅広く議論していきたい。一度に三つのテーマは難しいでしょうから、例えば二つくらいずつ回していくなど、適宜対応していきたいと思っています。

○記者

先ほどの納税環境の変化の対応についてです。第1回総会での総理からのマンデートの中にはこの項目は確かなかったように記憶しているのですが、今後重要なテーマの一つとして議論を深めていくということでしょうか。

○中里会長

国際課税を考えていきますと、どうしても必然的に入ってきます。個人所得課税も当然関連してきますので、どのような議論をするにしても避けて通れないテーマであるということが一番大きな理由です。

私個人として、3年前から現場が困らない租税制度をどのように構築できるのかということはずっと考えてきており、いい機会ですので、この辺りで、どこまでできるか分かりませんが、できる限り対応していこうという気持ちです。

○記者

党税調も11月から本格化すると思いますが、もうそろそろ最終的に政府税調としてどのような形でまとめていくかというような目途や、どのような形でまとめるかというような意見集約の方法が徐々に見え始めてきているのかなと思いますが、その辺りのところは今後どのようにお考えでしょうか。

○中里会長

あまり見え始めていない感じです。三つのテーマはそれぞれなかなか重いテーマでして、それについて拙速にならないように十分に議論したいと思っています。まだ、少なくともこの10月の中旬ぐらいの段階ではどうのこうのという感じにはなりにくいのではないかという感じです。

皆様の心の中ではそれでは遅いと言うことかもしれませんが、私たちもきちんとしなければいけないので、できる限り誠実に対応したいと思っています。

○記者

今日から議論を始められました納税実務の部分ですが、議論を伺っているとかなり幅広いお話になりそうですが、時期的なものも含めて、いつ頃どのような形で対応を、順次ということなのかもしれないのですが、反映させていこうというお考えなのでしょうか。

○中里会長

様々なテーマが関連してくることで、現場が混乱しないように納税者利便の向上ということと、適正、公正かつ公平な課税の確保という非常に深遠なテーマを扱いますので、時間はかけていこうと思っています。徐々にまとまったところから少しずつ現実の提言に結びつけていくため、全てを一挙に書くという卒業論文というようなものではなくて、少しずつ出すということが現実的であると思っています。ただし、まだ始めたばかりであり、今日は本当のイントロダクションですので、もう少し様子を見ながらという感じです。

○記者

二点あります。一つ目は国際課税で、今日も様々な御意見が出ていましたが、今後の議論の進め方や、例えば、このような所得は対象になる、ならないという具体的な話を政府税調の委員の方々で行っていくのか、どのようなところを次は行っていくのかイメージを教えてくださいたいと思います。まず一点目からお願いします。

○中里会長

皆様も外国子会社合算税制についてお調べになっていらっしゃるのではお分かりであると思いますが、少しお話を聞いたり、物を読んだりしても、これは一体何であろうという感じをお受けになるのではないかと思います。私のように40年近く勉強してきた人間でもなかなか厳しいところがあります。それでも、政府税調でどこまでということに関しては、今日はすごく良い意見が出ていました。あのよう大所高所からの議論をしていただく委員の方々と、岡村委員や増井委員のように法技術的に非常に制度設計の根幹に関わるようなことをおっしゃっていただく方々と、経済学者の先生方のように理論的にどのようにすべきであるかということをおっしゃっていただく方々など、様々な出身母体の方がいらっしゃいますので、それぞれの委員の方々のおっしゃることをよく聞いて、それを現実の立法作業に結びつけていくようにできる限り努力するというところではないかと思っています。

○記者

分かりました。もう一点が個人所得課税の話ですが、次回は全然取り上げないということの良いのでしょうか。

○中里会長

次回は行いたいと思います。

○記者

分かりました。その中で、個人所得課税で、先ほど中里会長が就業調整をしなくて済む仕組みをしっかりと考えていきたいということをおっしゃっていたのですが、第1回総会の時にはそれと併せて働き方に中立的な仕組みという言葉も使われていたと思います。働き方に中立的な仕組みは追い求めていくのでしょうか。

○中里会長

先ほど、次回のところで就業調整をしなくて済む仕組みということと、働き方に関して中立的な仕組みということ両方を申し上げたと思います。全て、その他のところに入っているということです。

○記者

分かりました。最近、配偶者控除の年収制限を引き上げて、103万円の壁をなくすという案が報道では出ていますが、これに関して中里会長はどのように思っているか、専門的な立場からお考えを教えてください。

○中里会長

それこそ国民の価値観に関わるような深遠なテーマですので、様々なお考えが出てくるということはある意味当然のことで、民主主義国家である以上、一つの問題について様々な方が様々なことをおっしゃるということをお歓迎します。

ただ、政府税調として、それをすぐどのようにするべきであるかどうかは、委員の方々のお考えがありますので、そのような中で考えていきたいと思っています。

○記者

今の質問に追加するような形になりますが、配偶者控除の年収制限の引き上げに関しては、第一次レポートには含まれていない内容になるかと思っています。A案、B案、C案というこれまで議論してきたものと、それに加えて今回の年収制限引き上げということが報道などで出ていますが、この案を加えるような形で議論することになるのか、その辺りを教えてください。

○中里会長

私個人が今すぐそれについてお答えする状況にまだありません。委員の皆様の意見をお聞きしなければいけないと思っていますし、先ほどの記者の方の御質問にお答えした時に申し上げたと思いますが、様々な考え方があってと思いますので、私たちが以前に出した第一次レポートをあまりにも墨守し過ぎてもいけませんし、また、反対にルーズになってもいけませんので、もう少しそこは委員の皆様と相談しながら考えていくことになるのであろうと思っています。

ただし、改革というものは一挙に行うという話では必ずしもない場合もあります。少しずつ行っていく場合もあります。そのためには例えば、AからBに行く時にベクトルの合成のように、Aから出発して、最終的にBに行けば良いという考え方もある

ので、その辺りは知恵の出し合い方というところなのではないでしょうか。

○記者

では、今回、配偶者控除などについて、党税調でも議論が始まりますが、秋にまとめる政府税調としての考え方というものは、ベクトルの合成のような数年度にわたるものをイメージされているのか、あくまでも総理からマンデートのあったところにある程度絞ったものになるのか、どのようなものをイメージしたらよろしいでしょうか。

○中里会長

直接的に総理から御指示を受けたことに対して誠実にお答えしようと考えています。

○記者

今日は個人所得課税の議論はとりあえず行わず、次回に行くということでした。聞いている分には、今、補選中であるということも理由の一つであるとお聞きしているのですが、中里会長の以前から政府税調と政治との関係、政府税調と選挙は非常に難しい関係であると思いますが、一方で、政治と一定の距離を置いて、あるべき税制をしっかりと語っていくことも一つ重要な役割であると考えます。その辺りを、今回議論を行わなかったことと、政治や選挙との関係ということについて中里会長として何か御所見はありますでしょうか。

○中里会長

私は学者ですので、とてもそのような大局的な判断はできません。テーマが今のところ大きく三つあり、それをどのように回していこうかという、専らロジの方から考えているということが実態です。

○記者

似たような質問で恐縮ですが、去年11月にまとめた中間の論点整理は幅広く、かなり大がかりな個人所得課税の大改革の絵姿を描いたと思います。今の議論は配偶者控除の見直しにかなり絞られてきているような感じがしますが、この秋にまとめるのか、考え方を示すものになるのかもしれませんが、この秋までの議論というものは、基本的には配偶者控除の見直しを中心とするということによろしいのでしょうか。

○中里会長

まだそのような段階にないのではないかと思います。新聞に書かれたからそのとおりでであるという時もあるでしょうし、そのとおりでないという時もあるでしょう。そこについて、私たちはあくまでも粛々といつもどおり行っていくとしか言いようがないのではないのでしょうか。

○記者

他はよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

○中里会長

ありがとうございました。

[閉会]